

第75回日本細胞生物学会「男女共同参画・若手育成ランチョンセミナー」アンケート結果

(1) 今回の企画をどのように知ったか?		(%)
1. 大会要旨集	16	48.5%
2. 会場でのお知らせ	2	6.1%
3. ホームページ	8	24.2%
4. 知人からの紹介	2	6.1%
5. 当日参加	5	15.2%

(2) ワークショップについてどう感じたか?		
1. 非常に有益	15	46.9%
2. 有益	13	40.6%
3. やや有益	4	12.5%
4. 全く有益ではない	0	0.0%

(3) (2) のように感じた理由

(2) の選択肢	理由
3	女性研究者の子育てとキャリア形成のお話が欲しかったかなど。(おそらく多くの若い女性大学院生が悩んでいる問題なのではないかと、、、)
	中野先生の奥様の視点からのキャリア形成のお話が聞いてみたかった。おそらく奥様は子育てにフルコミットメントなのではないでしょうか←それが悪いと言っているわけではありません。奥様がいつかキャリアを再開するとしたら、その時こそダイバーシティとしてのお話を聞きたいです。
2	両先生とも大変興味深いお話で若い人の進路を考える手がかりになりそうなので。
1	対面で実体験を聞くチャンスは貴重なので
1	スピーカーのセレクションが良かった
	パネルが学生からの生の声が聞けたのが良かった
2	多様なお話が聞けた
1	男女共同とか関係なく物事の見方として非常に面白かった
3	特に新しく感じることはなかった
1	マインドで教えていただいて良かった
1	子育てのためにセミナーや実験を休むことを許容するドイツの考え方を日本にも浸透すべきだと感じた
2	経験に基づいたお話を聞いて、これからの学生への応援メッセージだと感じた
2	あまりこのような話を公開で聞けることは少ないので良かった。ただ、結局は成功体験の話だった。
2	共感できる場所が多かった
2	色々なキャリアを聞ける機会なので
	学生のやり取りも良かった
1	将来を考えていく上で貴重な言葉をいくつかいただけた。
	活躍されている教授の方々もキャリアに悩みながら研究に進んでいることがとても分かった。
1	中野先生のお話がリアルでためになった
	天野先生には頑張ってほしいと思った
2	diversityを捉え直すことが出来た
1	天野先生、中野先生の貴重なお話を伺うことができ、今後の研究活動に活かしたいと考えたためです。
2	様々なキャリアパスが聞けるから
1	研究のことだけでなくキャリアについてお話を聞く機会を頂き大変ためになりました。

1	博士課程に進学する上で、勇気を貰った。
3	私は定年間際の研究者なので話題を実体験としては受け取れないところがある
1	これからのキャリア形成の助けになった
1	参考になった
2	オーディエンスは悩める人だと思うので、講演の先生方の苦労や葛藤をシェアできた点、良かったと思います。

(4) ワークショップの構成・司会進行・時間帯等に関する意見

	フロアからの質問がもっとあってもいい・シニアの人の意見も欲しい
	試みとしては良いなと思った
	ちょうどよかった
	良いと思う
	よかった
	適していた
	外人さんもいたのでせめてスライドは英語が良かった
	ちょうどよい
	時間帯はランチョンでよいと思う
	問題ないと思う
	時間が短いのが残念
	ちょうど良いと思う
	良かったと思う
	適切だったと思います。
	不満なし
	開始は15分早くてもよかった
	長すぎずちょうどよかった
	適切だった。
	登壇者がもう2人いても良かったかと思っています。

(5) 男女共同参画に限らず、ご自身のキャリア形成で悩んでいる点があればお聞かせいただきたい

	特になし
	なし
	まだまだ男性社会だと感じる
	ラボ内女性割合が高いので大変ではある
	博士課程終了後、都内勤務のパートナーのことを考えると海外や地方大学でのポスドクなどの選択肢を選ぶのが難しい
	明確な目標がない
	自分は教授のため、学生の支援の仕方悩む
	議論にもありましたが、子育て研究者(男女問わず)に対して人的サポート、技術員を配する、やアウトソーシングの費用が少なすぎると思います。
	私の家族構成は妻（会社員・フルタイム）と未就学児1人で、かつ近くにお互いの親戚がない状況です。いまのところ業務のデューティーが少なく、かつラボのスタッフの理解もあるおかげで、日中でもラボを抜け出して、子どもを病院に送迎ができるなど、家事・育児が比較的できる状況にあります。ただ、今後も妻もフルタイムでの就業を続けていきたいと考えており、私も研究の仕事をしていきたいのですが、今後業務のデューティーが増えた場合に現在のように家事・育児にコミットできるのかどうか不安に感じています。

(6) 男女共同参画推進・若手研究者育成委員会ワークショップではどのようなテーマを取り上げて欲しいか？

	子育てや他業種でギャップがある研究者（元研究者）のアカデミアでの研究活動再開はあり得るのか。アカデミアでのキャリア形成は一方通行（既存モデル）だけなのか
	若手対象：日々の研究室生活のあり方・男女共同：女性の数を増やす意義、、、など
	トークが面白い人に講演してもらう
	キャリアパスの多様性を紹介するような企画
	このようなテーマで議論できる社会で”幸せな時代”を感じる。継続してほしい
	PI公募の実際のところ。リアルな話が聞きたい
	男女を越えた多様性は？
	メンター制度（いわゆる大御所のラボ出身以外でも博士を取得しアカデミアに残ることもあると思うが少なくとも30代になるまでの2-3年は研究や教育、キャリア形成など気軽に話せるメンターがラボ外にいると心強いと思う）
	ポストドク問題
	指導的立場の女性比率はポストドク、大学院生レベルと比べて低い。この問題の原因分析と解決方法の検討
	人的サポートを充実させるのが日本の研究界を発展させるキーだと思うので、そのような制度を整備する文科省側とのディスカッションの機会があると面白いのではないかと。
	子どもができる前とできた後で、自分の時間の使い方、仕事の向き合い方、人生観などにおいて大きな変化がありました。そのような変化が他の人にもあるはずだと思い、それぞれどのような変化があったか、実際にどのようなことをしているのか、などを知る機会があれば良いと思います。

(7) 男女共同参画推進・若手研究者育成に関する細胞生物学会としての取り組みとして、ワークショップ以外にどのようなことが必要か

	ワールドカフェ形式との組み合わせ？
	官公庁に対して積極的に発信すること。
	私と似た境遇（配偶者がフルタイム勤務で子どもがいる）の方が近くにおらず、どのように仕事と家庭のことを行なっているのかがあまり知りません。そういった状況を共有する場として、イベントだけではなく、自分と似た境遇の人たちのコミュニティやネットでのフォーラム（掲示板）があれば良いと思います。

(8) 属性

1. 学部生	0	0.0%
2. 大学院生	6	20.7%
3. PIでない大学教員・研究員 (任期あり)	4	13.8%
4. PIでない大学教員・研究院 (任期なし)	4	13.8%
5. PI	13	44.8%
6. その他・企業	2	6.9%

(9) 年齢層

1. 10代	0	0.0%
2. 20代	6	20.7%
3. 30代	5	17.2%
4. 40代	7	24.1%
5. 50代	8	27.6%

6. 60代	3	10.3%
7. 70代	0	0.0%

(10) 性別		
1. 男性	21	70.0%
2. 女性	9	30.0%
3. その他	0	